

神権指導者に役立つ提案

奉仕伝道の業を推し進める方法

大管長会は、指導者および会員にあてた2018年11月付けの手紙において、次のように述べています：

奉仕伝道は、主によって受け入れられている捧げものであり、ティーチング伝道（布教伝道）が可能でない場合に行います。ティーチング伝道を「本当の伝道」「通常の伝道」「伝統的な伝道」と呼ぶことは不正確であり、避けるべきです。すべての宣教師は主を代表し、主の業を行います。

奉仕宣教師プログラムが引き続き大管長会のビジョンを受け入れて支持するものとなるよう幾つかの役立つ提案が特定されてきました。主たる見解としては、神権指導者（地域七十人、ステーク会長および地方部会長、ビショップ、支部会長を含む）が以下に焦点を当てるとき、主の業は最も前進し、文化が最も変化するということです：

- a. 口頭や書面によって、奉仕宣教師プログラムをサポートする姿勢を直接、また繰り返し示す。
- b. 口頭や書面によって、奉仕伝道指導者夫婦をサポートする姿勢を直接、また繰り返し示す。
- c. ステーク会長や地方部会長、ビショップや支部会長、そしてワードおよびステーク評議会が、奉仕伝道指導者と定期的に会合を持ち、ともに働くよう勧める。
- d. 奉仕伝道指導者にステークや地方部、ワードや支部、そして調整評議会集会和会合を持ってもらう。
- e. 奉仕伝道指導者に、ステーク大会、聖餐会、第5週の日曜日の集会などで話してもらう。
- f. 奉仕伝道指導者に、扶助協会会長と会合を持ってもらう。
- g. 奉仕宣教師とティーチング宣教師は同等に扱われるという文化を作り出す。
- h. ステーク会長は、早期帰還する宣教師の歓迎にあたり、地元の奉仕伝道指導者と事前に相談する。
- i. ステーク会長は、地元のステークから出ている奉仕宣教師に対して、引き続き宗務的な責任を負う。ステーク会長と奉仕宣教師の間に、親密かつ効果的で、思いやりのある関係を築くことは、その宣教師が主によって平等に感謝されていると感じる助けとなります。大管長会は、宣教師が少なくとも四半期に一度、宗務指導者と会うよう求めています。2019年は、奉仕宣教師のわずか56%しかそのような機会に恵まれませんでした。

